【 No 3】

続 校長のつぶやき

福井市長橋小学校
Ｒ４．９．１

「令和４年８月２９日（月）に学校が再開！私たち教職員の今のお・も・い！は・・・。」

長い夏休みを終え、三日前の２９日（月）、１学期の授業を再開しました。１７名の子どもたちは、時計の針が８：００を指すちょっと前、元気な姿で登校してくれました。

学校再開にあたり、子どもたち一人一人の気持ちは、様々だったでしょうが、何より全員がそろってスタートできたこと、とても嬉しく思っています。

《参考》
◎１学期最終日　：　１０月１３日（木）
◎秋休み　：　１０月１４日（金）～１８日（火）
◎２学期開始日　：　１０月１９日（水）

さて、これまでずっと断ち切ることができずにいる話題は、新型コロナウイルス感染症。夏休みに入り、急激に感染者数が増えました。かつては、福井県の感染者数が５０人、１００人、５００人レベルで驚きを隠せず、怯えていた時期もありましたが、今や１０００人を推移したり、２０００人に近づく数字を示すなど、オミクロン株の感染力の驚異、拡大スピードの驚異は、今もなお続いています。

しかし、社会の動きをみると、第７波では、政府も自治体も「行動制限はしない」という見解により、「３年ぶりの・・・」があちらこちらで。また、感染した場合、当初は、「知られたくない」、「蔑視されるかもしれない」など、差別や誹謗中傷を案じる風潮がありました。しかし、今は、まったくそうではないような気がします。やはり、社会そのものが変わってきたと感じてしまいます。まさに“ウイズコロナ”なのでしょうか。

埼玉県のある町の町長さんは、『コロナに対する警戒は必要ですが、やみくもに恐れることからは何も生まれません。正しい情報を取り込んで、正しく警戒して、ウイズコロナ（コロナと共存）の時代を、工夫しながら、乗り越えていきましょう。』とおっしゃっています。

本校でも学校再開にあたり、夏季休業中に養護教諭を中心に、学校でできる、しなければならない感染症対策を教職員全員で再確認しました。そして、当たり前のことを当たり前に徹底させるという共通認識を持つことの大切さを確認し合いました。

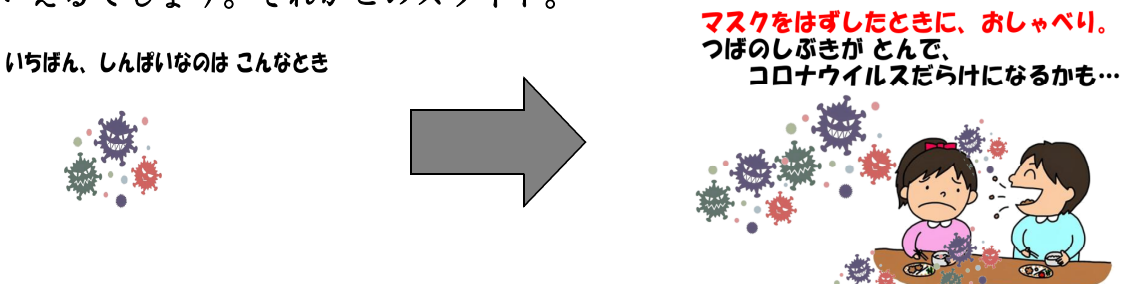
２９日（月）の集会では冒頭の写真のとおり間隔を保ち、換気を整えた上で全校集会を開きました。生徒指導主事の生活面の話の後、養護教諭は、児童に対して、基本的な感染対策を再確認してスタートを切ってほしい、安全に安心して学校生活を送ってほしいという目的で「コロナ対策がんばるぞー！長橋小バージョン」を考案し、パワーポイントを使いながら説明しました。決して目新しい内容ではなく、先に申し上げたとおり「当たり前」の内容なのですが、校長の私も子どもと同様に、スライド（画面）に引きつけられてしまいました。

※以下、スライドの一部を紹介

＊裏面につづく

学校生活の中で、最も感染リスクが高いと考えられる場面といえば・・・。
保護者の皆様は、どんな場面だと思われますでしょうか。

何が正解かは分かりません。しかし、私たち本校職員は、「黙食ができていないときの給食」だと考えています。給食時に会話をしてしまったら、「マスクをはずしている」、「飛沫が飛びかう」という条件がそろい、感染のリスクは高まるといえるでしょう。それがこのスライド。



最後に長橋小バージョンの感染症対策を児童に示し、全校集会を閉じました。

このように、集会にて、子どもたちも私たち教員もともに感染症対策を再確認し、学校を再開しました。保護者の皆様におかれても、児童や同居のご家族の日々の健康観察等を引き続きお願いいたします。

※登校等についての留意事項は、８月２６日（金）に福井市教育委員会より発出された保護者あて一斉メールをご覧ください。

今後の学校の対応等については、以下のとおり考えていますので、簡単に申し述べます。

■感染症対策を徹底すること（決して気を緩めない）
＊マスク着用、こまめな手洗い、換気、一定距離を保つ　など

■子どもの学びを止めない　→　できる限りコロナウイルス流行前の学びに！

小学校での学びは、この時期にしかできないことです。しかし、この時期にコロナが流行し、令和２年度あたりから、これまで当たり前に行われてきた行事等ができなくなり、消化不良のまま中学校へ進学していった先輩方も少なくないのではないでしょうか。コロナというものがどのような病気かがわかりつつある今、また、社会そのものが変化しつつある今、学校は、できる限り流行前の学びに戻していかなければならないと考えています。今年度の運動会も地区の体育大会までとはいきませんが、「今でもできる応援合戦」、「今ならできる親子競技」なども盛り込んだプログラムを計画しています。また、現在週２回としている清掃も回数を増やす計画など、できる限り通常運転に戻したいと考えています。

最後になりましたが、日本学校保健会主催のセミナー「BA.5 新型コロナウイルス感染症への新学期対応について」を受講した養護教諭から、先日、報告を受けました。テレビでもおなじみの岡部信彦氏：講師（川崎市健康安全研究所長）のお言葉の中に、今、私たちがやらねばならないことに気づきを与えてくれるものがありました。

☆学校は、子どもの生活・教育・遊びを守りながら対応すること。
☆感染者を早期に発見し、大きくならないうち（小さなうち）に押さえること。
☆学校は、必要以上に警戒するのではなく、バランスを考えること。